続・続　私的アンソロジー

しあわせの構図

Ⅰ　序

黒沼　貞志

続・続 私的アンソロジー「しあわせの構図」

I 序

黒沼 貞志

もくじ

一　発刊に向けて
二　発刊に寄せて
三　前著 続私的アンソロジー〝しあわせの構図〟に寄せられたメッセージ
四　年譜（やましん歌壇掲載記録、山形新掲載記事、やましんサロン投稿、荘内日報投稿、市立図書館記念講演など）

一　発刊に向けて

前著「続 私的アンソロジー 〝しあわせの構図〟」を上梓したのが７０歳、古希の翌年にあたり林住期の終盤にあたる区切りでもありました。また、この発刊と期をあわせてＵターンして起業して生業としてきた法人を解散した年でもあり、その後は「ＳＫソリューションズ」として活動しております。

それらにあわせてＵターン以降開設し更新してきたホームページもリニューアルしそのトップページに次のように表現しています。

３０年の企業における業務経験で培った『ソリューション（課題解決）能力』『プロジェクト・マネジメント（事業遂行管理）能力』を提供しながら、Ｕターン（１９９９年）以降地域の自立と蘇生（グローカライゼーション）の必須機能である〈産・学・官・民〉協働・連携を推進出来る【地域力共創】のコンセプターをめざしてまいりました。７０歳（２０１７年）を契機に法人を解散し「ＳＫソリューションズ」として活動しております。

この間に頭の中で芽生えたのが、もし心身が許すなら遊行期の門にあたる７５歳に「続・続」篇となる冊子を上梓したいという希望であり、少しづつその希望を温めて準備をしてきました。そして、この度、この「続・続」篇

を上梓する運びとなりました。

前著の構成を振り返ると自身の学生期・家住期・林住期（終盤）におけるアクティビティに加えて写真、短歌、写真短歌、コラム飛耳長目などを加えたいわゆる自分史的な内容になっています。

今回の冊子発刊にあたりそのコンセプトは自分史的要素はあるものの生業から離れた領域のアクティビティに照準を絞ることにいたしました。

そしてそれらは試行錯誤、紆余曲折を経て「Ⅰ 序」、「Ⅱ 歌集」、「Ⅲ 写真短歌集」、「Ⅳ コラム「飛耳長目」／著作・投稿・寄稿」からなる四部作という体裁での発刊に落ち着いた次第です。

心身の衰え（特に７０歳以降）は日々の作業能力の基でもある「質とスピード」の衰えを実感する日常生活ですが手に取っていただく方にはそれらも感じ取れるのではと思います。それらを含めて目を通していただけますと望外の喜びです。

２０２３年３月吉日

黒沼　貞志

二　発刊に寄せて

■黒沼さんの遊行期への門出を祝う　川村　志厚（社会デザイン研究機構　代表）

今回の「しあわせの構図」は4部構成となっていますが、コンテンツとしては短歌と写真と時評に限定されています。したがって、この拙文も掲載の短歌と写真に関する所感として書かせていただきました。

黒沼さんは、やましん歌壇の常連作者で筆頭席を占めることもあり、橋田東声・臼井大翼の覇王樹の流れに連なる県内屈指の名門結社・黄雞会員としても活発な創作活動を続けています。歌人としての実績を着実に積み上げてきたといえるでしょう。拙文筆者の立ち位置は、短歌については、専門の社会学・比較文化論の視点から、日本の定型短詩と英・独・仏・伊の定型短詩との比較考察を行ってきたこと、写真については、趣味として70年間絵を描いてきたことを拠り所に、黒沼さんの作品について自分勝手な門外漢的所感を述べさせて頂くこととした次第です。

黒沼さんの短歌・写真・写真短歌に感じられる通奏低音は、平明・率直・純粋な絵画的響きにあると言えるでしょう。

遠き山近き紅葉を水面に浮かべて池は秋の万華鏡

選評も「心の動きに雑念がなく、直線的な描写が心地よい」と、黒沼さんの人間的魅力を実に的確にとらえていて、感服させられます。

山里の早苗の田の面に映りおる雪斑なる飯豊の山並み

水の春早苗の空に雲流る頬を撫でゆく風の声聞く

池や田など水面に映る風景を詠じた短歌がやや多いのは、その作風に親和的な情景であるからと考えられます。

雲が湧き山も滴り街中は涼風とおり花の香満ちる

秋天の木漏れ日の中歩み行く朽葉積もるる山路やさしき

雨音に目覚めし朝は寒九の日母に添寝の昔蘇えり

石蹴りの筋跡避けて草むしる桜の蕾ほころぶ公園

作品に投影される自然や人々に対する優しさもまた、黒沼さんの素の人柄の表現と言えるのではないでしょうか。

朽ちてなお青空割きて凛と立つ白骨木は樹林の中に

アリウムが空にすっくと咲き居りぬわれ誘われ背を伸ばしおり

いつよりか「世話にはならぬ」が揺らぎをり遠くに暮らす娘と語れば

忘れ雪これがそうねと語らいて重い腰上ぐ雪掻きの朝

風邪に臥し久々に見る夢の中母の十八番の懐かしき粥

７０歳前後はまだまだやれるぞという強気の思いが、７０半ばを過ぎるころから、時折弱気な思いが顔を出し始めます。高齢者の揺れ動く感情をあざやかに表現できるのも、観察力的確な黒沼さんならでは作品なのでしょう。

写真については、技巧に走ることなく、対象が語りかけるがまま、その穏やかさ・美しさ・優しさ・強さ・厳しさ・弱さなどをひたすら捉えようとしています。したがって、添えられた短歌がもつ絵画的・視覚的傾向が写真と融合し、一体として響き合うという効果を生み出していくことになります。他の方が撮った写真に黒沼さんの短歌を合わせた作品についても、日本画に添えられる画賛と同様、その写真の隠れた良さを引き出す結果となっており、間違いなく素直で好感の持てる作品群になっていると思います。

ひたひたと足音聞こゆ改憲の数の揃うを報じるメディア

コラム等との関わりを感じさせる時事に関する短歌も少なくありませんが、平和を愛し穏やかな日常を願う黒沼さんの率直な感慨がどの作品にも込められています。

アンソロジー我が歩み記す一冊の無事の入稿誰に伝へむ

以上、どの作品も観察力・記録力・表現力・コミュニケーション力という、いわば文系・理系融合の柔らかな能力によるところが大きいと思います。これは、現代短歌をめぐる諸状況を考えるうえで、示唆に富むものと筆者は考えています。俳万智以来のニューウェーブ、ライトヴァースの流行、小学生から高齢者までの短歌人口の膨張、カルチャーセンターの盛況、短歌を含め文学全般における若い女性作家の台頭などなど、短歌の世界も大衆化・俗化と選良化・聖化の二極化が進んでいます。良くも悪くも、古今集仮名序の状況が現実化した世界とも言えます。このような時代こそ、しあわせの構図を描きつつ、やわらかくしなやかな日常を詠う黒沼さん流が価値あるものとなるのではないでしょうか。

75歳となり遊行期の入り口に立ったとの感慨をお持ちかと思いますが、筆者に言わせれば、後期高齢者は「高貴高齢者」であり「光輝高齢者」であり「好期高齢者」でもあると思います。元来、陰陽五行説の考え方では、人

生は青春・朱夏・白秋・玄冬の各３０年、大還暦１２０歳とされており、遊行期に当たる玄冬は９０歳スタートです。黒沼さんは白秋さなかと考えていただき、ぜひとも今後も旺盛な短歌創作活動と写真撮影活動を続けていただきたいと願うものです。

■ 発刊に寄せて　佐藤紀之（山形市立図書館職員）

「続・続しあわせの構図」の発刊おめでとうございます。前作から五年の月日が流れましたが、その間、誰もが予想だにしなかった新型コロナウイルスの世界規模での感染拡大が今も進行中という状態です。そんな中、黒沼氏は、「もし心身が許すなら遊行期の門にあたる七十五歳に「続・続編となる冊子を上梓したいという希望」の灯を絶やさずに灯し続け、この本の上梓に漕ぎ着けたアクティビティーには殊のほか頭が下がります。

この五年間、私は永年勤めた中学校現場を定年退職し、新たな職場として山形市立図書館本館に嘱託職員として任用されました。その間、黒沼氏との交流はさらに深まり、私が講師を務める「よのなか科講座」に参加してくださ

ったり、開催の情報発信を担ってくださったりと多大なる支援をいただきました。そして、図書館に利用者による安らぎのある文化スペースを設けようという取り組みの一環として、令和元年度から図書館の書架の一角に短歌と写真のコラボ作品として黒沼氏の「〝写真短歌〟への誘い」を、令和二年度より「〝表現の杜〟への誘い」という写真、短歌、俳句、イラスト、回文、書、絵画などの組み合わせの〝妙〟の魅力を展示をしていただいております。

黒沼氏には、二ヶ月に一回図書館の休館日に足を運んでいただき、新しい作品に差し替え、記録としてカメラで写真に収めている姿に表現者として風格をよく感じたものです。そして、インターネットを経由して「写真短歌通信」および「表現の杜通信」によるアウトプットも即座に発信されます。

改めて、アナログとデジタルの両刀使いのできる黒沼氏の強みを羨望の思いで眺めております。毎年二月から三月にかけて二階展示室で開催される「市民の出版物展」の展示室にも年間の「写真短歌」「表現の杜」の作品が一堂に展示されますので楽しみです。

この「続・続しあわせの構図」には私の知らない黒沼氏の一面を見ることができました。それは、写真を狙い、短歌を詠む黒沼氏ではなく、社会批評家としての黒沼氏。その原点とも言える大学工学部新聞の投稿記事でした。

黒沼氏がホームページに掲載する「コラム 飛耳長目」は、その延長線上に、市井の声の代弁者として確固たる主張をされ続けている姿勢に敬服したところでした。

最後に、歌誌「黄雞」や新聞歌壇投稿で活躍されている黒沼氏の短歌は、永年培ったカメラアイの力も借りて言葉を紡いでいるように私には感じられます。風景や人物の所作を大胆な構図で切り取ったかと思うと、はたまた見落としがちな細部を丁寧に描き切っては、余情をしめやかに滲ませる作風は、近年ますます冴えているような気がしてなりません。そして、忘れてならないのは、長年にわたり日揮にお勤めになられ、海外での生活もあったことから、日本の国政や社会の動向を俯瞰的に見る目を養われていたことが、「飛耳長目」に見る世の中に対する健全なる批判的精神を持って時事詠を詠まれる強みとなっているものと思われます。私も短歌を嗜む一人として、黒沼氏の作風に大いに学ばせられております。

これからも、次なる自分史を新たに書き加える力量は十分に持ち合わせていらっしゃると思いますので、ご活躍を祈念しながら、わが人生の先達としてこれからもご指導賜ればと思っております。この度は発刊誠におめでとうございます。

■続・続 私的アンソロジー「しあわせの構図」に寄せて

木原邦彦（元第一貨物㈱勤務）

なぜか黒沼さんと話を始めると、止まらない。いずれが出した話題でも、互いに話をし出すと、止めども無く話が進んで行く。結論が出そうに無い話では、どちらかが、別の興味深い話に、「ところで」と言いながら、話題転換して行く。前の話を放り出す訳でも無く、次の話題でまた盛り上がる。

正に私の読書方法の「併読」の感で話が進む。摩訶不思議な二人の会話である。

こんな調子だから、携帯電話での通話時間が伸び、必然的に携帯料金に跳ね返る。当然、家内からの査問委員会（二人だけ）の対象として、掛かることになる。

なぜ時間を忘れて、話題に熱中して話が進むのかを考えて見ると、黒沼さんからは、お叱りを受けそうだが、多分「似た者同士」だからだと、単純に考えてしまう。

何と言っても二人共に「好奇心」の塊だ。其処に黒沼さんの探求心の深さが加わるから、簡単には、話が進まな

い。なぜなぜの連発が有り、その答を探している内に、手掛りのモノが気に成り出す。そんな事の繰返しを重ねて話は進む。終わる訳が無い。互いに社会の束縛を卒業して、潤沢な時間を手にしたからこその楽しみだ。

この「しあわせの構図」全体は、「写真」と言うファインダーを通して培ってきた、黒沼さんの社会の一瞬を切り取る技に長けた感性が、構成全体を網羅している。特にコラム「飛耳長目」は、最たるモノである。時世のトピックス、政治への違和感、疑問が解けない内は、何度でも食らい付いていくしつっこさ。黒沼さんの真骨長が垣間見える。

黒沼さんには、「技」が増えた。「短歌」と言う手段も手に入れた。しかもこれまでの主要な武器である「写真」と新たな武器の「短歌」を組み合わせると言う『写真短歌』を始めた。吉川英治の大作「宮本武蔵」に登場する、個性的な魅力に富む、名うての鎖鎌の名手、「宍戸梅軒」も真っ青の強さを生み出した。

「写真短歌」は、山形市立図書館に常設のコーナーでも展示されている。また、「写真短歌」だけでは飽き足らず、「写真〇〇」として、自分のＨＰと言う、広場を利用して、「詩」・「俳句」・「回文」分野の愛好家の人をも巻き込みながら、日々進化を続けている。

この学兄に、ついて行くには、これまでの経験や知識だけでは、置いてけぼりを食いそうなので、好奇心の維持や読書を欠かさずに生活をする習慣が、「必須科目」になりそうである。

三

前著「続 私的アンソロジー〝しあわせの構図〟」に寄せられたメッセージ

（Ｗさん）

本日、黒沼さんの集大成の一つである書籍を拝受いたしました。送付先として選んでいただいたことも含んで、厚く御礼申し上げます。前回のＤＶＤからもう１０年経過したのですね。早い時間経過と黒沼さんのご活躍継続に驚くとともに感心しております。黒沼さん７０歳との事、また周辺整理の上で次のステップに向かわれるとの事、うらやましいですね。当方、退職後、日揮とのつながりが薄い複数社＆団体の顧問を中心としたフリーランスを気楽に務めております。また、ちょっと特殊なボランティアを行うための研修を受け始めており、次のステ　テップを模索しております。

（Ｙさん）

私は黒沼さんの短歌等、文章表現から、文系の御出身と勝手に誤解してました。工学部電気系の御出身である経歴を読み、自身の不明に恥じ入っております。既に、巻頭の紹介の稿を少し、原発に関わる文章を少し読みましたが、これから、じっくり読みたいと思います。工学系でも素養がおありの方は文章も違うのですね！

（Kさん）

素晴らしい冊子ですね。黒沼さんの生きざま、特に山形へのUターン後の生きざまがよく分かります。私も、及ばずながら、湘南の地で、認定NPO法湘南ふじさわシニアネット（www.sfs-net.com/）に携わっています。

（Nさん）

まあ、またすごい集大成を出しましたね。もうこれで思い残すことも無くなったように思われる力作ですね。私など、来年古希を迎えるに当たっても特に人生のまとめをしようなどとは思いませんが、体力の方は、衰えるばかりで、日常と違うことをやると、すぐにこれが人生最後かな?と思ってしまうこの頃です。

（Wさん）

改めて、黒沼さんの人生に対する哲学（黒沼ワールド）に触れたような気がしました。ソリューション・コラボレーターとして、数々の活動に参加され、著書・寄稿・投稿さらには多くの講義を行っておられる経歴を見て、7名の方々が発刊に寄せて〝の賛辞（または辛口のコメントも）は黒沼さんの人徳とそれに裏書された言動と行動に対するものと思います。「敬愛してやまない人です」とか「今でも耳に残るフレーズ『好奇心、アンテナの高さ、

アンテナの感度』は、仕事のみならず、『続 私的アンソロジー〝しあわせの構図〟』に地下水脈と「流れていることを実感できます」との発刊に寄せての言葉などは、如実にそれを表すものと思います。納められた、短歌、写真、写真短歌、コラム「飛耳長目」は林住期の終盤に纏められ、【遊行期】への羅針盤として上梓されたとのことですが、益々お元気で地域力共創のコンセプター〟としてご活躍され「続・続私的アンソロジー」の発刊をされることを楽しみにしています。指南書として時に触れて読み直し、小職の今後の人生も見直してみようかと思っています。

（Nさん）

今、「しあわせの構図」を読まさせて頂いて居ますが、特に、「発刊に寄せて」に寄稿された方々の文章が面白く、何度か読み返しました。日揮の同期（？）の、哲学者みたいな林さんを始め、他の寄稿者も、お付き合いの期間の長短の違いは有っても、皆さんが同様に、黒沼さんの個性と行動力に感化され、私も一緒だと思いました。短歌や写真に、黒沼さんの〟人や地域と自然〟に対する繊細な思いが表れて居る様に思って居ます。

（Sさん）

発刊に寄せてを拝読するにつけ、黒沼さんの深部を読み取るような迫力と愛情を感じました。よき理解者に囲まれているうらやましさとともに、貴人徳を感ずる次第です。山形の戻られてからの諸（数えきれない）活動は何が原動力であられたのか、元々の秘力であったのか、苦しさではなく楽しみではなかったかと推察しております。会社勤めでは体験できない、手応えを得ておられたのではと、、。

（Aさん）

一昨日、「〜続 私的アンソロジー〜　しあわせの構図」が届きました。早速、ページを開け、拝見させて戴きました。貴兄のこれまでの足跡、お考えや想い、知的創造の数々…只々感服しております。時の移り変わりとともに、写真や短歌、随想の数々が、とても心地よく時に社会に対する提言を交え、アンソロジーとしてすばらしい構図です。人生の大先輩として、着実な歩みの姿、大きな器を観た思いでした。

（Aさん）

それにしても、こうしてひとつの〝かたち〟になると、やはり圧巻ですね。黒沼さんの生き様が露わになると

いう意味でもそうですが、山形というところにはどのような哀愁が漂い、美しさがあり、また課題があるのかも浮かびます。そして、人は社会の一員であるという当然の事実にも、改めて目の当たりにした思いです。個人的には、黒沼さんの人生の一部に私も関わらせて頂いた形跡も見当たり、不思議な感覚にもなりました。黒沼さんという「蛙」は本当に「冬眠」するのか、私は疑わずにはいられませんが（笑）どうぞこれからも、大いにご活躍下さいませ。

（Hさん）

谷地のYHの家内です。立派な作品集を頂戴し御礼申し上げます。主人は静かに見入ってをりましたが、きっと刺激を受けたと思います。日々の精進が足りないようで、一向にまとまりません。口からでて　くるだけで、書き留めていないみたいです・反省の念が意欲に変われば・と、密かに見つめています。

（Tさん）

続私的アンソロジー　しあわせの構図」の発刊、おめでとうございます。冊子をお送りいただいて、ありがとうございました。これからゆっくり読ませていただきますが、「自分史」の一つの新しい方向性、とくに男性にあう

スタイルではないかと思います。とても参考になります。

（Wさん）

感服致しました。なかでも、124ページの、「如何に削るか　書かずに書く」の文章に、深く感じ入りました。至らぬ我が身を恥じ入るばかりです。

（Sさん）

この度は立派なご本をお送り頂き、誠にありがとうございました。まずは、貴兄の集大成された成果品をゆっくり読ませて頂きます。色々な経験、幅広い人脈、第2の人生の奥深い内容にビックリしております。

（Kさん）

作品を整理整頓して記録として披露することの大事さを学ばされます。

年譜　四

短歌、写真短歌等に絞って新聞関係、山形市立図書館関係、拙ホームページ関係、短歌結社関係情報などを記載

■短歌、写真短歌などの活動の年譜

・2014-3 ～　やましん歌壇投稿＆掲載：毎月一度の投稿（３人の選者にそれぞれ３首）を始めて九年を終え
その間に百五十五首の選歌掲載（月平均掲載率：約1.4首）となっております。それらの中で
共同制作を含む写真短歌は七十三作品で約４７％を占めております。

・2017-4 ～　短歌結社「黄雞」に入会

・2019-2 ～　山形市立図書館常設コーナーⅠ「〝写真短歌〟への誘い」開設＆継続中

・2019-3-22　山形新聞記事掲載：山形市立図書館における写真短歌コーナー開設

・2019年　リニューアル更新した拙ＨＰ内の「Gallery」に次のコーナーを開設＆継続中
短歌（やましん歌壇）／短歌（短歌結社）／写真短歌-Ⅰ／写真短歌-Ⅱ／市立図書館常設
コーナ-Ⅰ／市立図書館常設コーナ-Ⅱ

・2020-4 ～　山形県歌人クラブ入会

・2020-4-16　やましんサロン投稿＆掲載：「写真短歌」知り親んで

・2020-8 〜継続中　山形市立図書館常設コーナーⅡ「〝表現の杜〟への誘い」開設
・2020-10-23　やましんサロン投稿&掲載：投稿契機 交流生まれる
・2022-11-26　荘内日報「私の一冊」に投稿&掲載：「名こそ惜しけれ」の精神
・2023-3-1 マイタウンあさひ掲載記事（新聞屋さんのミニコミ紙）：
「撮る×詠む 〜 写真短歌への誘い（vol.268）」
・2023-5-1　同右：「撮る×詠む 〜 写真短歌への誘い（vol.270）」

「Ⅰ序」へのあとがき

今回の続・続篇の冊子発刊にあたり次のお三方には私の我儘に応えていただき序の「発刊に寄せて」に過分な一文を頂戴いたしました。この場をかりて感謝申し上げます。

・川村志厚先生：Uターン以降のわがビジネス・地域活動の師

・佐藤紀之さん：私が短歌を始めるきっかけをいただいた短歌の先達

・木原邦彦さん：俳句を嗜みお互いの好奇心の世界で共通項が多い知友

１９４７年山形市生まれ。ソリューション・コラボレーター。山形大学工学部卒業後日揮（株）入社。企画・プランニング・基本設計・建設・運転・プロジェクトマネジメント・営業などを通して海外および国内産業界の各種ソリューション（課題解決）・プラント建設・運転などを担当。１９９９年日揮（株）退職し山形にＵターン。２００１年㈲ＳＫソリューションズ設立（代表取締役）。経営コンサルティング業の傍らＣＢ推進コンソーシアム（プロジェクトマネージャー）、山形市福祉のまちづくり活動委員会（事務局長）、おいしい山形の食と文化を考える会（事務局長代理）、（ＬＬＰ）山形ふるさと企画舎（代表）、地域力共創推進コンソーシアム（代表）、ＮＰＯパワーアップコンソーシアム（代表）、東北まちづくりオフサイトミーティング（運営委員）などを通じて地域力共創に関わる。2016年㈲ＳＫソリューションズを解散しＳＫソリューションズ代表として活動中。

１９９５年　三人展（写真）@横須賀市
１９９６年　個展〝しあわせの構図〟（写真）@横浜ランドマークプラザ
２００９年　DVD 私的アンソロジー（自分史）を上梓
２０１５年　遊縁の衆として歌集【遊縁】を上梓
２０１８年　冊子&デジタルブック「続 私的アンソロジー〝しあわせの構図〟」を上梓

続・続 私的アンソロジー〝しあわせの構図〟「Ⅰ序」
二〇二三年三月十三日　初版一刷発行
著者　黒沼　貞志
発行者　ＳＫソリューションズ
〒990-0831　山形市西田一-十二-十
Fax　023-646-2448　Tel　090-2522-4548
E-Mail　sks@sk-solutions.org　URL　https://sk-solutions.org/
印刷・製本　冊子印刷ドットコム（株式会社春日）
領価（分冊Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳケース入り）　1，000円
© Sadashi KURONUMA＼SK Solutions 2023